

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

トヨタに忍び寄る「三つの危機」

1. 令和元年8月1日、後にノーベル化学賞に選ばれることになる吉野彰・旭化成名誉フェローの元を、豊田章男・トヨタ自動車社長の父、豊田章一郎氏（トヨタ名誉会長。94歳）が訪れていた。吉野氏は、リチウムイオン電池の発明者である。近年、自動車産業には「CASE（ケース。コネクテッド、自動運転、シェアリング&サービス、電動化という四つの技術トレンド）」の大波が襲い掛かっている。そのうち、車の「電動化（E）」を進めるために不可欠なキーデバイスとなるのがリチウムイオン電池だ。
2. 章一郎氏が吉野氏に会いに行った意図はどこにあったのか。吉野氏本人が打ち明ける。「未来のモビリティ社会がどのようになるのか。章一郎さんも章男社長も、未来の予測が難しくなったことに大変な危機感を持っている。何かヒントが欲しかったんだろうね」。
3. CASEの破壊力は凄まじい。トヨタをはじめ伝統的な自動車産業には三つの危機が忍び寄っている。一つ目は、既存の製品やビジネスモデルが消える危機だ。CASEの「E」である電動が進捗すれば、エンジンを含む内燃機関部品は用済みになる。ビジネスモデルも激変する。二つ目は、CASE領域で稼げずジリ貧になる危機だ。現状では、先行投資がかさむばかりで、新領域で稼ぐモデルを確立できた自動車メーカーはまだない。三つ目は、伝統的な自動車産業の「破壊者」、モビリティ領域への新規参入者（米グーグル、アップル等）に、敗北する危機だ。

（参考：「週刊ダイヤモンド」2019年11月23日号）

経営者のための営業学

お客様から愛されることの大切さ

坂元寛明（パナソニックモバイルソリューション事業部長）

1. 赤字続きだったパソコン事業が、なぜうまくいったのか。パナソニックはもともと家電の会社ですのでパソコン事業は傍流でした。失敗はいっぱいしました。その末にたどり着いたのがレッツノートや、タブレットのヒットでした。レッツノートやタブレットは、お客様とのつながりから生まれた製品です。だからこそ、お客様とのつながりは、ライバルのどの会社にも負けたくない位一番強く持ちたい。お客様との接点を大事にするやり方は絶対に変えない。
2. 一生懸命に取り組むことで、お客様に、しょうがないな、かわいいやつだなと思ってもらえるように、どろくさい絆で家族のように愛してもらえる存在でありたい。お客様から愛されることの大切さは、創業者の松下幸之助も言っています。

（参考：「日経ビジネス」：2019年11月18日号）

経営者のための理念・哲学

大切な自律と自助の精神

1. 自律とは自分で自分を律すること。他に振り回されず、自分でコントロールし、自分のリズムを創っていくことである。自助とは自分で自分を助けること。即ち自律自助とは依存心を捨て、すべてを自分の責任として対処していくことだと言える。人や環境のせいにはせず、自分の最善を尽くすことだと言える。
2. 「天は自ら助くる者を助く」という格言がある。自律自助の精神がある人へのみ、天はその力を与えてくれる、ということだろう。明治初期、ベストセラーとなったサミュエル・スマイルズの「自助論」の冒頭に「自助の精神は人間が真の成長を遂げるための礎である。自助の精神が多くの人々の生活に根づくなら、それは活力にあふれた強い国家を築く原動力となるだろう」とある。

（参考：「致知」2020年1月号）

古典に学ぶ

散ずるという意味

（解説）よく散ずるという意味は、正当に支出するのであって、すなわちこれを善用することである。我々は金を費んで善用することを忘れてはならない。実に金は貴ぶべくまた賤しむべし。これをして貴ぶべきものたらしむるのは、ひとえに所有者の人格によるのである。しかるに世には貴ぶということを曲解して、ただ無暗にこれをおしむ人がある。真に注意せねばならぬことである。

（参考：渋沢栄一「論語と算盤」：国書刊行会）